

アジアの未来と課題

武蔵野大学

客員教授 川口 順子 氏



令和4年3月9日、3月度会員懇談会を開催した。
出席者は会場55名、WEB77名。要旨は以下の通り。

■世界のパワーシフトの変化

欧州は冷戦後、順調にロシアとの経済関係を強めてきたが、ウクライナ侵攻によってこれまでの時代は終焉した。欧州が最も影響を受けるが、その範囲は不透明で、エネルギー・資源や食糧、金融、経済、情報の分野まで及ぶだろう。膠着状態が続き長期化すると、各国による制裁も同様に拡大し世界経済全体に不透明感が広がる。

今回の侵攻がもたらす変化の最大のポイントは、米国と中国の国同士の対立から、「民主主義と専制主義」へと対立構造が変化したことである。ユーラシア大陸にある二つの大国（ロシアと中国）が専制主義国家となることの影響は、周辺国家にも波及し、大きな意味を持つ。

米国、中国は国内に複雑な課題を抱えている。米国では政治的対立が、社会的・文化的な対立まで広がった根の深い分断が生じており、長く続くと思われる。中国は、政治の「統制」と企業の「自由」という矛盾した体制を抱えている。

日本は米国と同盟を結んでおり、米国が困難な状況にあれば支援し、一番の味方であり続けなければならない。もう1つ重要な役割として、自由貿易体制を守ることが挙げられる。米国がTPPを離脱したので、日本がリーダーシップをとり、加入に関心を示す英国、中国、台湾との交渉を処理し、自由貿易体制を維持しなければならない。

アジアという枠組みの中でいうと、日本は、中国一強の状況を作らせないことが大事である。ASEANは、中国と相対することができる強い存在として日本に期待を寄せている。日本がこの役割を果たすには、まず経済が強靱であること。そして、国際競争力のある人材を育成することが大切である。企業や組織が強靱だけでなく、日本人1人1人が国際舞台で活躍できる強い人材にならないといけない。スポーツ選手が理想的な例で、自分の足で外の世界に飛び出し、自ら基盤を整え活躍できる、そんな人材を多数育てることである。

■気候変動における日本の役割

人類の生存のためには、地球の健全性が不可欠である。CO₂の排出量は、1940年代後半より急速に増え始め、特に中国、インドを含むアジアの排出量は近年急増している。従って、アジアが削減努力をしなければ、地球温暖化は改善されない。日本の排出量は、アジアの中で中国やインドに続いて大きく、日本の役割や責任は大きい。また、依然としてアジアは石炭依存が高い。このほど、岸田総理が国会の施政方針演説で「アジア・ゼロエミッション共同体」を掲げ、日本が主導してアジア有志国と共に脱炭素化を目指すとの考えを述べた。日本の企業は環境に対する高い技術力や資金を保有している。ぜひ産業界の貢献を期待したい。

■多様性社会の入口としてジェンダーギャップ解消を

2021年に世界経済フォーラムが発表した日本のジェンダーギャップ指数ランキングで、日本は156カ国中120位となった。2006年の80位から順位を落とし続け、先進国の中でも最低レベルまで転落した。他国がギャップ解消に取り組むなかで、日本は改善のスピードが非常に遅く、極めて深刻な状況だ。特に「経済」と「政治」分野での女性の参加割合が低いことに起因しており、経営者の方々にはぜひ自分事ととらえ、解決への行動を示していただきたい。

多様性社会の実現のための入口が、男女の機会均等であると考え。まずこれが実現しなければ、外国人も日本で平等に扱われないのではと考え、来日を敬遠するかもしれない。多様な国が集まる国際社会で日本が発言権を持つこともできなくなるだろう。

理想的な多様性社会は、ラーメンのスープのように、多様な味が渾然一体となり、新たな美味しさを生む社会ではないか。日本そしてアジアの未来のために、いま以上に多様性を受容し、新たな価値を生み出せる国になることを願っている。